



## 子どもの健幸

代表 大森正子

「私も先生！」プロジェクトから始まった COFUN E の活動。定年後の活動は自分のしたいことをする！をモットーに、その後、サロンの開催、月刊情報紙の発行が加わり、COFUN E を事務局とした独立型の組織「ふまねっと運動」、「市民の健康を守る会」も加わりました。当初は、高齢者の力を発掘し活かす活動に主眼を置いていました。それは今も変わりません。しかし、子どもとママパパ世代を支援する団体、子どもの貧困に心を痛める方、養護施設の職員さんとの出会いもあり、次第に子どもの健康と幸せな未来を願うささやかなお手伝いも、と考えるようになりました。個人的には3年前から東京都のフレンドホームに登録させていただき、児童養護施設で生活する一人の子との交流を続けています。2か月に一度わが家で遊んだり、食事を一緒にする程度の交流ですが、お誕生会だけ合流する娘家族は、会うたび「え～、大きくなったね！」と声を上げています。

「市民の健康を守る会」も子どもを受動喫煙から守るだけではなく、子ども自身が自らの健康と未来を考えられる教育の普及に力を入れています。昨年は「清瀬市内全ての小中学校で喫煙防止教室の実施」をと陳情し採択されました。しかし、実施されるか否かは、また別もの！自ら動かねば叶わないとは・・・。令和2年1月25日、清瀬第六小学校と共催で喫煙防止教室を実施します。



## 本の紹介

### 「まちいっぱいの子どもの居場所」

内田宏明・福本麻紀 編著  
子どもの風出版会  
1,600+税

日本教育新聞でも紹介(2019.9.2.新聞より引用)今、子どもたちを巡る環境は決して安心できる状況ではない。児童虐待、養育放棄、不登校やいじめ問題など、枚挙にいとまがないほどだ。そのような状況に、著者たちは果敢に立ち向かう。子どもたちの人権を守り、子ども自身の居場所を子ども自身に決めさせるために。



## 「私も先生」清瀬に広がる子ども食堂

～発表を終えて 第13回先生 福本麻紀 氏

「私も先生」の当日、けやきホール、セミナーハウスのあふれんばかりの参加者に驚きました。主催者である大森さんは市内公共施設にちらしを配ったり、たくさんの市の掲示板にポスターを張る努力をなさってこられました。その結果は当然ながら、今回の多くの参加は「子ども食堂」に対する市民の関心の高さを物語っているようでした。また、子どもが気軽に立ちよれる居場所として子ども食堂が地域に根付いているあかしたとも思われました。

清瀬市の子ども食堂の特徴は人口規模に比べて数が多く、クローズ型の子ども食堂が多いという点にあると思います。子ども食堂と言うと貧困な家庭の子どもを対象とするイメージが多くの市民の中にあり、食堂を運営する方々も困難な状況下にある子どもに関心を寄せる方も多い一方、子どもとの交流、世代間交流をイメージして始めた方もおられます。

家庭以外の場所で、地域の大人と一緒に食卓を囲む、友達とわいわい話しながら食べる、バランスのよい食事を取る、交流やつながりといった共同性が市民の中に「よいこと」として応えられており、孤立化が進んでいる地域社会に対する反動なのかもしれません。また、子ども食堂を支える学生ボランティアの通う日本社会事業大学の存在も大きいものがあります。

クローズ型が多い理由としては、清瀬市のスクールソーシャルワーカーや子ども家庭支援センターの専門職が積極的に地域につないでくれていることが大きな要因です。特定の子どもの丁寧に対応できるクローズ型だからこそ、安心して紹介できるのだと思いますが、根底には地域の取り組みに対する信頼感があるのだと思われま

す。日本がまだ「いえ」制度を引きずっているのかどうかは不明ですが、子どもは親や「いえ」のモノではなく、育てる責任も親や「いえ」だけにあるのではなく、社会の子どもとして育てていく文化を醸成していきたいものです。まだまだ子どもの居場所づくりは続きます。まちいっぱいの子どもの居場所を目指して。

(おひさまネットワーク)

COFUN E は、Community FUREAI Net の短縮形で『こふね』と呼びます。『私も先生！』プロジェクトで報告された資料は、COFUN E のホームページにて掲載しておりますので、ご覧になってください。